



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
上尾市大字上1774-7
048(776)0575
fukayama-sov@jcom.home.ne.jp
ホームページは検索サイト
”深山たかし”で閲覧できます。

議会りポト

☆新図書館建設特集☆

図書館行政に熱心な自治体は、他の施策も充実しています。そんな理由から私は、十二年間図書館整備に情熱的に取り組んでいます。上平公園西側に建設が予定されている仮称上尾市中央図書館がどんなイメージになるのかを尋ねました。

図書館のコンセプト

平成二十二年に策定した「上尾市図書館サービス計画」において、「くらしに役立ち、市民とともに歩む図書館」をコンセプトに掲げ事業を進めていきます。上尾市図書館サービスは、本館と八分館・公民館図書室で構成され、更には、現在富士見小学校内にある子どもの読書活動支援センター

が、家庭、地域、学校との連携を図り、子どもの読書意欲を向上させています。

「図書館に行けば必ずほしい情報がある。知りたいことがわかる。やりたいことが見つかる。」と信頼され、あらゆる機会に図書館が活用され、情報や人の交流を促し、地域に活力を生む原動力となることが大切です。

図書館の必要性

現本館は、昭和五十六年六月に開設され、多くの市民に利用していただいておりますが、社会情勢の変化や市民ニーズの多様化により、利用者の求める資料の種類や保存すべき資料を増やしたいが施設が手狭で、書架を増やすことができない

いため、結果的に資料の配架は、限定的となつている状態。また、防音性の問題で、乳幼児や児童を集めて、イベントを企画する場合などには、他の利用者にご迷惑を掛けまいよう、常に子どもの声に注意を払わなければならぬ状態です。学習席は、会議室と兼用する五十一席しかなく、利用可能日が限定され、土・日・祝日は、席を確保するため、開館前に玄関に並ぶ姿も多く見られます。

また、閲覧席は、隣の人との読んでいる本がわかるほど詰めて座るありさまで、歴史資料などを広げて閲覧・研究する机もない状態から、「くつろいで読書するスペースがほしい」という要望は、多くの方からいただいております。

さらに、インターネット検索などの利用者端末が四台と少なく、持ち込みパソコン用の環境も整備されていません。

施設面でも、現本館は、築三十三年が経過し、雨漏

りや各種設備の故障も度々発生し、老朽化も認めません。お客様用トイレの床に段差があり、授乳室や子ども用トイレもありません。このようなことから、新中央図書館は、「上尾市図書館サービス計画」及び「第四次及び第五次上尾市総合計画」に位置づけられ、二十三万都市に相応しい図書館の建設に向けて建設予定地の地権者にもご理解をいただきながら検討を進めています。

誰もが来たくなる図書館について

コンセプトを支える三つの柱を立てています。

一つ目は「誰もが集える安全で居心地のよい空間として」。二つ目は、「調査研究・情報提供機能の拠点として」。三つ目は「図書館システムの中心として」を掲げ、機能の充実を図っていきます。

目指す新図書館の全体のイメージは、上平公園に隣

接する立地条件を生かして、緑豊かな自然環境の中、市民が憩い、安らぎ、落ち着いて読書ができるサロンのような空間、静かで集中して学習や調査・研究ができる空間、本に囲まれたわくわく・ドキドキ感に満ちたよるこびと感動を与えられる空間の中で、それぞれの利用者にテーマに沿った情報提供や学びの支援を行い、地域に貢献する図書館にしたい。

また、従来のサービスに加え、市民それぞれの方の趣味趣向、日常の課題や課題の解決につながる生活支援をするため、ビジネスの入門書から業種別専門書を充実させ、さらには、時代の変化に対応できる情報・デジタル化を進めながら地域に密着した図書館を目指します。また、乳幼児と保護者を対象に本を介してのコミュニケーションづくりや、学校との連携を

図りながらの児童への読書サポート、高齢者が関われるイベント開催など、現在図書館を利用していない方からも「新しい図書館へ行ってみたい」と思える図書館を目指します。

図書館と市民との協働

図書館と利用者のパイプ役として市民が関わることは、重要であると考えられています。現在、上尾市図書館では、絵本の読み聞かせをはじめ、朗読、本の整理、図書館まつりの企画など、多くのボランティアの方々に支えられております。

今後は、更に市民との関わりを深めるために、運営面におきましても市民の知恵や力をお借りたい。

市民と一緒に考え、「図書館で本が読みたい・図書館のイベントに参加

したい」など思わせるような、充実したコラボレーションを実現し、図書館活性化を目指します。

（仮）上尾市中央図書館の目指す機能である「誰もが集える安全で居心地のよい空間」とは具体的にどのようなものか

まず、新中央図書館は、現本館の蔵書数約三十二万冊から約四十七万冊目標に、利用者が本を手にとって見られる本の冊数を約十二万冊から約二十八万冊にすることを目標に、資料の収集や開架に努めます。

また、現本館の閲覧のための一般・児童席の合計八十六席から二〇〇席程度に増やすほか、一〇〇席程度の学習専用席を目標に設置したい。

図書館は、多くの社会教育施設の中でも、子どもから高齢者まで、障がい者の有無に関わらず、外国籍市民なども含め、

誰もが集い、学ぶことができる施設であることから、災害に強く、安心安全面に配慮してまいります。また、バリアフリー化については、誰でも理解できるサインや、適切な明るさや照度、動きやすいゾーニングの工夫など検討します。

また、ゆっくり滞在できるよう、コーヒーを飲みながら読書を楽しめる席の設置を検討します。

さらに、利用の多い車や自転車・バイクで来られる方のために、一〇〇台程度の平置き駐車場や二〇〇台程度の自転車置き場を目標に設置したい。

「調査研究・情報提供機能の拠点」とは具体的にどのようなことか

利用者が調査などのため、図書館に来た際に、図書館員が必要な情報や資料を検索し、お手伝いする「レファレンス」業務を充実させるため、専

用カウンターを設置します。

また、新中央図書館では、多くの学習機会を提供していくため、乳幼児・児童・青少年・一般向けに、講演講座を継続して行い、本を通じた地域コミュニティの確立を目指します。

また、上尾市の歴史を知ることができる古文書等の郷土資料を市民が見られるように、わかりやすい郷土資料のコンテンツづくりを行い、写真や動画の閲覧や郷土資料を基に上尾市の歴史を探访するなどの案内も行いたい。

これからの図書館には、欠かせない機能が、情報化・デジタル化。情報の発信や配信サービス、館内AV資料の試聴、館内インターネット閲覧などを考えられる機能の充実を図り、情報の収集・作成・管理を行えるよう検討します。